

令和3・4年度市町村立美術館活性化事業 第22回共同巡回展
土門拳記念館所蔵「土門拳写真展—真実を見つめる眼」展（仮称）

【企画について】

激動の昭和を独特のカメラアイで切り撮り、日本の写真界に大きな足跡を残した土門拳（1909～1990）。戦前、戦中、戦後、復興、高度成長と、日本社会全体が目まぐるしく変化していく中、強烈な個性とこだわりを持って、一貫してそこに生きる日本人や現実社会を撮り続けました。また、同時に、伝統的な文化や古寺を大型カメラで見据え、独特の美意識で、連綿と続く日本人の心を追求し続けました。

発表された数多くの作品と土門拳の写真に対する考え方は、その時々社会に大きな影響を与え、日本の写真文化の形成にも大きな役割を果たしてきました。

今回は、土門拳記念館の協力のもと、日本の写真を牽引してきた土門拳を紹介する共同巡回展の参加館を募集いたします。携帯電話にもカメラ機能が搭載され、写真を撮るといった行為が身近になった昨今、写真やカメラの文化を改めて見つめなおすことのできる企画内容ともなっています。

土門拳の「眼」

2020年に突然としてはじまったコロナウイルス感染拡大は、これまでの社会のあり様、人の価値観を大きく変えようとしています。多くの人にとって、かつて経験したことのない時代になったといっても過言ではないと思います。第二次世界大戦後の混乱と激動の日本において、「日本人の姿と日本の心」を写しとめ、どの分野のテーマにも、ほんもの＝真実にこだわった土門拳。土門の「眼」と作品が、私たち日本人が進むべき心の拠り所となり、また生き方を考える道標になるような展覧会になればと願っております。
（貸出協力館・展覧会アドバイザー：土門拳記念館）

- 〈開催時期〉 令和4年度（令和3年度は準備年に当たります）
〈事業主体〉 第22回共同巡回展実行委員会（参加決定後、令和3年度に全参加館により組織します）
〈助成〉 一般財団法人 地域創造（準備年、開催年の2か年にわたり助成します）

【出品可能な作品詳細】 土門拳記念館が所蔵する土門拳のライフワークや代表作を含むシリーズ
例えば、こんな展覧会が出来ます！

日本の美を発掘（見る）する

土門拳のライフワーク「古寺巡礼」の代表作 52点
※サイズ：900mm×700mm～150mm×100mm。様々なサイズ有

日本の社会を目撃（見る）する（Ⅰ）戦前 50点 ※サイズ：530mm×355mm 他

内訳：「土門拳の愛した下町」9点、「赤十字看護婦」7点、「入営と出征」9点、「横須賀海兵団と予科練」9点、「戦時下の東京」16点

日本の社会を目撃（見る）する（Ⅱ）戦後

84点
※サイズ：530mm×355mmが多い。600mm×900mmなど若干有

内訳：「戦後の東京」31点、「戦後の地方」9点、「昭和のこどもたち」44点

日本の社会を告発（見る）する

53点
※サイズ：主に530mm×355mm

内訳：「政治への参加」14点、「ヒロシマ」15点、「筑豊のこどもたち」18点、「三池闘争」6点

日本人を擬視（見る）する

「風貌」121点
※サイズ：主に298mm×210mm

出品作品については共同巡回展実行委員会において選定させていただきますが、所蔵者の都合、作品の保存状態等によりご希望にそえない場合もありますので、予めご了承ください。